

# りんご栽培情報 第2号

令和6年4月24日  
J A ア ル プ ス  
富山県富山農林振興センター

## 1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「ふじ」の開花始め（連続して1～2花開花した日）は4月17日（前年値4月7日、平年値4月18日）で、ほぼ平年並みとなりました。今後は、実どまりが確認でき次第、摘果作業を進め、スムーズな果実肥大を促しましょう。

## 2 病虫害防除

黒星病・褐斑病の重点防除時期です。下表を参考にして、散布間隔が空きすぎないように、また、散布ムラのないよう防除を実施してください。なお、降雨により病害の感染が広がるので、雨前散布を基本としてください。

コンフューザーR（※）を使用する場合は、5月中下旬頃に10アール当たり100本設置してください。

※対象害虫：リンゴコカクモンハマキ、モモシクイガ、ナシヒメシクイ

成木基準

（散布量：500L/10a）

回	時期	対象病虫害	使用農薬	希釈倍率	100L当たり必要薬剤量
4	中心花 落花後 (4月末旬)	黒星病、黒点病、うどんこ病、褐斑病 ハマキムシ類、キンモンホソガ (展着剤)	カナメフロアブル カスケード乳剤 マイリノー	4,000倍	25 mL
				4,000倍	25 mL
				20,000倍	5 mL
5	5月上中旬 (以降約 10日間隔)	黒星病、黒点病、斑点落葉病、褐斑病 アブラムシ類、キンモンホソガ、シクイムシ類 (果実の表皮障害防止) (展着剤)	デランフロアブル バリアード顆粒水和剤 クレフノン マイリノー	2,000倍	50 mL
				4,000倍	25 g
				100倍	1 kg
6	5月中下旬	黒星病、斑点落葉病、褐斑病、 黒点病、赤星病 (果実の表皮障害防止) (展着剤)	ユニックス顆粒水和剤47 トレノックスフロアブル クレフノン マイリノー	2,000倍	50 g
				500倍	200 mL
				100倍	1 kg
				20,000倍	5 mL

農薬散布の際は、濃度や対象病虫害など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。  
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

## 3 摘果剤の使用について

摘果作業の遅れは、果実肥大や翌年の花芽形成等に影響します。摘果作業が遅れる恐れがある場合、以下の注意点に留意して、摘果剤(ミクロデナポン水和剤 85)を散布してください。

### <摘果剤使用の注意点>

- ①対象品種は「ふじ」のみとし、また、結実が少なめの園では、散布を控える。
- ②ミクロデナポン水和剤 85 は、希釈倍率 1,200 倍で、展着剤を加用して散布する。
- ③おおむね満開から2週間後頃、中心果の横径が平均 8 mm の時が散布適期となる。果実によって肥大が異なるので、いくつか中心果の横径を測って、散布時期を決める。
- ④ミクロデナポン水和剤 85 は、殺虫剤なのでミツバチ巣箱設置園では、必ず巣箱を片付けた後に散布する。
- ⑤散布直後に降雨があっても、再散布は控える。
- ⑥効果が現れるまで散布後2週間程度かかるが、効果の発現を待たずハサミによる摘果作業を進める。

#### 4 二年枝の摘花・摘果について

二年枝(前年に伸びた枝)の花・果実(えき芽花・果)(写真1)は、着果させても果形や果実品質が劣り、翌年の花芽形成等に影響しますので、早期にすべて摘花・摘果してください。

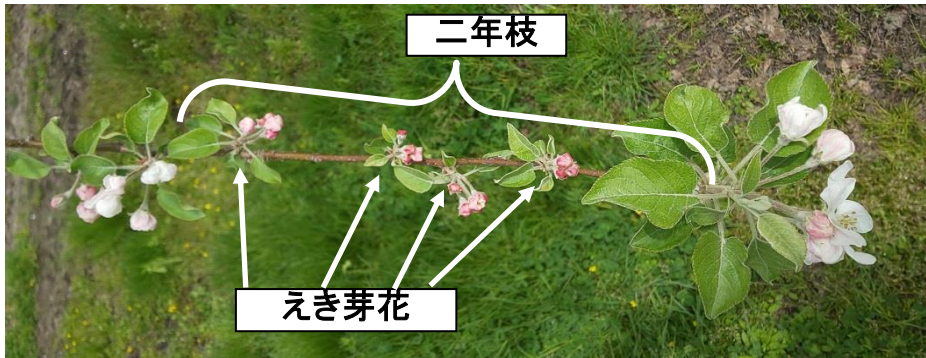


写真1 「えき芽花」は全て摘み取る

#### 5 予備摘果について

「ガク立ち」(写真2)を確認後(受粉7~10日後頃)、満開30日後頃までに終了するよう、以下の注意点に留意して実施してください。

##### <予備摘果の注意点>

- ① 「ふじ」以外の品種は、側果にサビが出やすいので、必ず中心果を残す。
- ② 「ふじ」は、中心果が小さい場合や実止まりしなかった場合は、形が良く大きい側果を1果残す。
- ③ 「秋映」は、サビ果発生抑制のため、早めに予備摘果を終える。
- ④ 「シナノスイート」は、心カビ果発生抑制のため、他品種が終わってから実施する。
- ⑤ 「ふじ」・「秋映」は、軸を長く残すと収穫期まで残り、果実を傷つけるので、軸は付け根から切り落とす(写真3)。

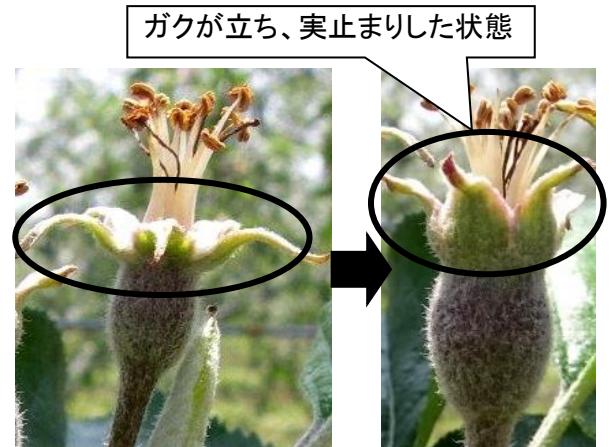


写真2 ガク立ちの確認

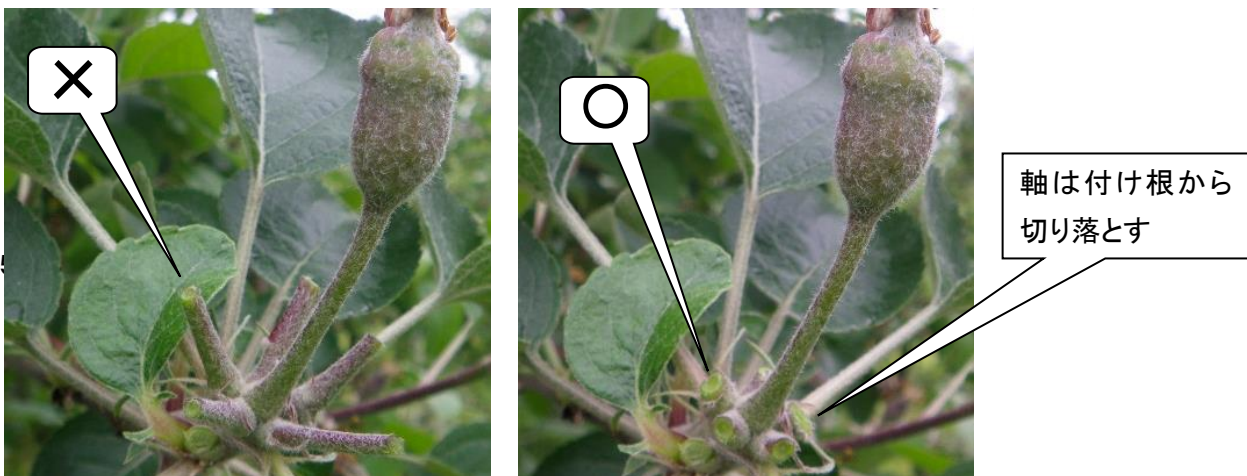


写真3 「ふじ」、「秋映」の予備摘果

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。